

磐梯山とその周辺地域におけるラン科植物の新知見

山下由美（福島大学大学院共生システム理工学研究科）

遠藤優年（福島大学大学院共生システム理工学研究科）

友坂 豊（裏磐梯エコツーリズム協会）

遠藤雄一（福島県立医科大学医学部）

山下俊之（奥羽大学薬学部）

山口昌子（福島大学共生システム理工学類）

黒沢高秀（福島大学共生システム理工学類）

磐梯山とその周辺には多くの植物の生育が過去に確認されている（奥山 1958, 五十嵐 1961, 小林 1962, 坂下高校理科クラブ 1969, 広木 1976, 福島県植物誌編集委員会 1987, 富田 1997, 渡辺・黒沢 2007）。ラン科だけでも 28 属 49 種類が報告され、このうち 18 種類が環境省または福島県のレッドリストに掲載されている、絶滅危惧種などの保護上重要な種である。しかし、ラン科の一部の属は種の正確な同定が難しく、また最近記載された種類もある。そのため、文献に記されていても証拠となる標本の同定を確認する必要がある。また、この地域は 1888 年の水蒸気爆発によって植生が破壊され、その後現在に至るまで遷移が進行している場所を含むため、これまで知られていなかった種類が生育している可能性もある。そこで、国内の主要な標本室で標本調査を行って、磐梯山とその周辺で採集されたラン科植物の標本の同定を確認すると共に、ラベル情報をもとに生育状況を把握した。さらに磐梯山と周辺地域で現地調査を行って現在の生育状況を調べた。

その結果、21 属 33 種類のラン科標本を各地の標本室で見いだすことができた。さらに、現地調査では 2008 年に新種として記載されたシテンクモキリ *Liparis purpureovittata* Tsutsumi, Yukawa et M.Kato (図 1) の生育を東北地方で初めて見出した。また、未記載種のアキタスズムシ *Liparis sp.* (図 2) の生育も確認した。文献で記録されたものの、その後生育が不明であったミヤケラン *Platanthera chlorantha* (Cham.) Rchb.f. var. *elata* Finet (図 3) も記録から 50 年以上経て再確認された。

今回の標本と現地調査の結果、22 属 36 種類のラン科植物の生育が磐梯山とその周辺地域で確認された。保護上重要な種はさらに 1 種増えて 19 種になった。しかし、エビネ、クマガイソウ、キンラン、ニヨホウチドリ、テガタチドリなど 15 種類の生育が依然として確認できなかった。引き続き標本調査をするとともに、現地調査を継続して、今回確認されなかった種について調査を行い、遷移が進むこの地域でのラン科植物相の変化を明らかにしたい。

<お願ひ>

磐梯山周辺で以下のランについて見たり聞いたりした方は下のメールアドレスに情報をお寄せください。どのようなことでも結構です。どうぞよろしくお願ひします。
エビネ、キンラン、ニヨホウチドリ、クマガイソウ、ツチアケビ、アオテンマ、テガタチドリ、ムヨウラン、スズムシソウ、アリドオシラン、サギソウ、タカネトンボ、ジンバイソウ、キソチドリ、ヤマトキソウ。

連絡先メールアドレス：山下由美

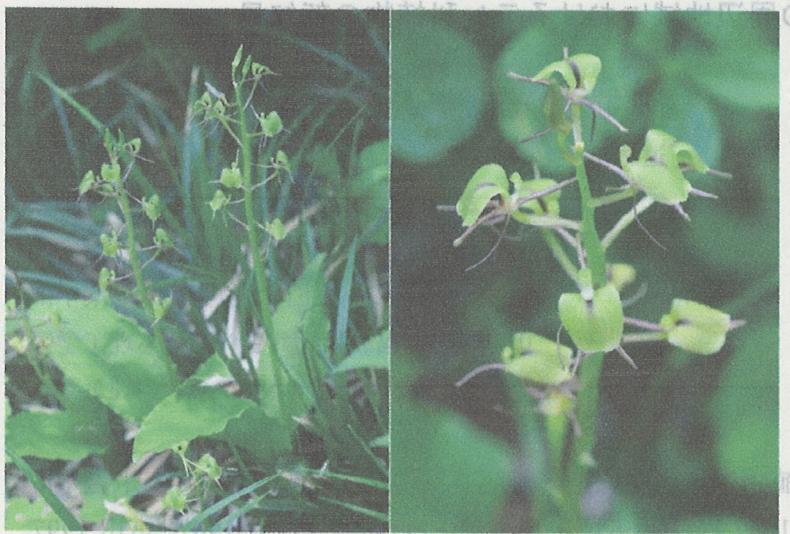


図1. シテンクモキリ. 右: 花のアップ



図2. アキタスズムシ. 右: 花のアップ



図3. : ミヤケラン. 右: 花のアップ

の山林地帯

の山林地帯

の山林地帯

の山林地帯

の山林地帯

の山林地帯

の山林地帯